

一宮研伸大学紀要執筆要項

(体裁)

1. 原稿は原則として、現代仮名遣い・常用漢字による和文とする。
2. 投稿論文は、下記フォーマットを使用し、ワードプロセッサで作成する。
 - 1) 余白は、上下 24mm 程度、左右 19mm とし、横書き、22 字×40 行×2 段とする。
 - 2) フォントサイズは、タイトルを 16 ポイント、要旨・キーワードを 10 ポイント、本文を 10.5 ポイントとする。
 - 3) 和文は MS 明朝、英文は Times New Roman を用いる。数字は特別の場合以外は半角アラビア数字を用いる。原稿中(文献リスト含む)の英数字はすべて半角文字とする。
 - 4) 読点は「、」句点は「。」を用いる。文献リストの文献表記には、原則として「,」と「.」を用いる。
3. 専門的な略語を使用する際には、初出時に正式名を書き、それに続いて略語を（ ）内に示す。

(構成と規定枚数)

4. 投稿論文等の枚数は規定の分量におさめる。
 - 1) 原著は、図・表を含んで刷り上り 16 頁以内とする。
 - 2) 総説、研究報告は、図・表を含んで刷り上り 10 頁以内とする。
 - 3) 実践報告、資料は、図・表を含んで刷り上り 6 頁以内とする。
5. 表紙の所定の位置に、別添のフォーマットに従って以下の事項を記載する。
 - 1) 原著は、論文の種類、タイトル(和文・英文)、著者の氏名(和文・英文)と所属(和文)、要旨(和文 400 字程度・英文 250 語程度)、キーワード(和文・英文)を記載する。
 - 2) 総説、研究報告、実践報告は、論文の種類、タイトル(和文・英文)、著者の氏名(和文・英文)と所属(和文)、要旨(和文 400 字程度)、キーワード(和文)を記載する。
 - 3) 資料は、論文の種類、タイトル(和文・英文)、著者の氏名(和文・英文)と所属(和文)を記載する。
6. 原著、研究報告は IMRAD (Introduction, Method, Results, and Discussion) に従い、Ⅰ 背景、Ⅱ 方法、Ⅲ 結果、Ⅳ 考察等の見出しをつけて記述する。
7. 見出しは太字 (Bold) とし、Ⅰ 1. 1) (1) の階層順でナンバリングする。
8. 原稿はそのまま電子製本するため、図表等を含め、レイアウトを適切に整える。ただし頁番号は編集委員会が割り振るため不要である。

(提出)

9. 原稿は、原本と査読用を以下のとおり用意して提出する。
 - 1) 原本は Word ファイルを 1 部、電子投稿システム(Google Forms)に提出する。
 - 2) 査読用として、投稿者を特定できる情報を伏字にした論文を 2 部複写し、期日までに論集編集委員会メールボックス(事務所)に投函する。

(文献表記の方法)

1 0 文献を本文中に示す場合には括弧で括って記す。

1) 学部生以外の場合

APA 方式に準拠して(著者の姓, 出版年, ページ)の形式で表記する。ページは「p. XX」と記し、複数ページにわたる場合は「pp. XX-XX」とする。和書、洋書いずれであっても「,」「.」は半角文字とし、直後に半角スペースを空ける(ただしこれらの記号が直後に連続する場合にはスペースは不要である)。著者の数に応じて以下のように表記法を使い分ける。また文中に著者名が現れる場合には、()内のそれを省略することができる。

例 和書(著者1名)	(佐藤, 2017, pp. 233-235)
和書(著者2名)	(佐藤, 山本, 2001, p. 12)
和書(著者3~5名)	(佐藤, 山本, 高橋, 中村, 1991, p. 15)
和書(著者6名以上)	(佐藤ら, 2003, p. 23)
洋書(著者1名)	(Breig, 2001, pp. 23-44)
洋書(著者2名)	(Breig & Wolf, 2002, p. 34)
洋書(著者3~5名以上)	(Breig, Collins, & Wolf, 2001, pp. 121-123)
洋書(著者6名以上)	(Breig et al., 2003, p. 454)
著者の省略	これを佐藤は再検討した(2017, pp. 233-235)。

2) 学部生の場合

『アカデミック・スキルズ第3版——大学生のための知的技法入門』に準拠して(著者の姓 出版年:ページ)の形式で表記する。和書、洋書いずれであっても「:」は半角文字とし、直後に半角スペースを空ける。著者の数に応じて以下のように表記法を使い分ける。また文中に著者名が現れる場合には、()内のそれを省略することができる。

例 和書(著者1名)	(佐藤 2017: 233-235)
和書(著者2名)	(佐藤・山本 2001: 12)
和書(著者3名以上)	(佐藤他 2003: 23)
洋書(著者1名)	(Breig 2001: 23-44)
洋書(著者2名)	(Breig and Wolf 2002: 34)
洋書(著者3名以上)	(Breig et al. 2003: 454)
著者の省略	これを佐藤は再検討した(2017: 233-235)。

1 1. 論文の最後に文献リストを付ける。

1) 学部生以外の場合

APA 方式に準拠して、文献は和書、洋書を一括して著者の姓のアルファベット順に並び、同一著者の文献が複数ある場合にはさらに出版年順にする。文献毎に改行し、一文献が複数行にまたがる場合には2行目以降を全角2字下げにする。

(1) 和書

原則として「,」「.」「:」は半角文字とし、直後に半角スペースを空ける(ただし

これらの記号が直後に連続する場合にはスペースは不要である）。著者が複数いる場合には「,」で区切る。文献の種類に応じて以下のとおり記載する。

①雑誌論文

著者（出版年）. 論文名. 雑誌名, 巻（号）, ページ. （ただしページの p. は省く）

例 曾我洋子（1984）STAI について. 看護研究, 17 (2), 107-110.

②論文集の一論文

著者（出版年）. 論文名. 編者（編）, 書名（ページ）. 出版社.

例 横山千晶（2003）. 脚／足の復権——ヴィクトリア朝の歩行文化. 武藤浩史, 樽沼範久（編）, 運動＋（反）成長——身体医文化論Ⅱ（pp. 242-267）. 慶応義塾大学出版会.

③単行本

著者（出版年）. 書名. 出版社.

例 鈴木正子（1996）. 看護することの哲学. 医学書院.

④訳書

原著者（原書出版年）/翻訳者（訳）（訳書出版年）. 訳書名, 出版社. （ただし原著者は原綴とし、姓を先に、名のイニシャルを後に書き、姓と名の間を「,」で区切る）

例 Thomas, P. (2013)/山形浩生, 森岡桜, 森本正史（訳）(2014). 21 世紀の資本, みすず書房.

⑤ウェブ上の文書

著者（公表日または最終アップデート日）. 文書名. URL [閲覧日]

例 衆議院（2017/6/1）. 第 193 回国会 衆議院 憲法審査会会議録 第 7 号会議録.
<http://kokkai.ndl.go.jp> [2019/7/30 閲覧]

（2）洋書

原則として「,」「.」「:」は半角文字とし、直後に半角スペースを空ける（ただしこれらの記号が直後に連続する場合にはスペースは不要である）。著者は姓を先に、名のイニシャルを後に書き、姓と名の間を「,」で区切る。著者が複数いる場合には「,」で区切り、最後の著者名の前に「, &」を置く。また論文名等の本題と副題との間は「:」で区切る。文献の種類に応じて以下のとおり記載する。

①雑誌論文

著者（出版年）. 論文名. 雑誌名, 巻（号）, ページ. （ただしページの p. は省く）

例 Uden, G. (1985). Inpatient accidents in hospitals. *Journal of the American Geriatric Society*, 33, 833-841.

②単行本

著者（出版年）. 書名. 出版地: 出版社.

例 Kane, R. (1996). *The Significance of Free Will*. New York: Oxford University Press.

③論文集の一論文

著者（発行年）. 論文名. 編者（Ed. 編者複数なら Eds.）. 書名（ページ）. 出版地: 出版社. （ただし編者のみ名姓の順に書く）

例 Jackson, J., MacFalda, P., & McManus, K. (1989). Status of nursing shortage and projections. T. Moore, & E. Simendinger (Eds.). Managing the nursing shortage: A guide to recruitment and retention (pp. 1-2). MD: Aspen.

④ウェブ上の文書

著者（公表日または最終アップデート日）. 文書名. URL [閲覧日]

例 Wakayama Tourism Federation (n. d.). World Heritage: The Kumano Kodo Pilgrimage Routes (The Official Wakayama Travel Guide).
<https://en.visitwakayama.jp/themes/world-heritage-the-kumano-kodo-pilgrimage-routes> [retrieved 2019/8/9]

2) 学部生の場合

『アカデミック・スキルズ第3版——大学生のための知的技法入門』に準拠して、文献は和書・洋書を一括して出版年順に並べ、文献毎に改行し、一文献が複数行にまたがる場合には2行目以降を全角2字下げにする。

(1) 和書

原則として「,」「.」「:」は全角文字とし、前後にスペースを空ける必要はない。著者が複数いる場合には「,」で区切り、欧米人名が含まれる場合にはカタカナで名・姓の順に記し、間に中グロ「・」を打つ。書名、雑誌名は『 』に、論文名等は「 」に入れて記し、本題と副題との間は「——（2倍ダッシュ）」で区切る。文献の種類によって以下のとおり記載する。

①雑誌論文

著者，出版年，「論文名」，『雑誌名』巻号：ページ（電子版の場合は、URL，取得日）。

例 曾我洋子，1984，「STAIについて」，『看護研究』17巻2号：107-110.

②論文集の一論文

著者，出版年，「論文名」，編者+編，『書名』，出版地：出版社，ページ.

例 横山千晶，2003，「脚／足の復権——ヴィクトリア朝の歩行文化」，武藤浩史，樽沼範久編，『運動+（反）成長——身体文化論Ⅱ』，東京：慶応義塾大学出版会，242-267.

③単行本

著者（または編者+編），出版年，『書名』，出版地：出版社（電子ブックの場合は、版名，取得日）。

例 鈴木正子，1996，『看護することの哲学』，東京：医学書院.

④訳書

原著者，出版年，『書名』，翻訳者+訳，出版地：出版社（電子ブックの場合は、版名，取得日）。

例 トマ・ピケティ，2014，『21世紀の資本』，山形浩生，森岡桜，森本正史訳，東京：みすず書房（Maruzen eBook Library 版，2019年7月29日取得）。

⑤事典項目（冊子体）

著者（不明の場合は著者不明），出版年，「項目名」，『事典名』巻，ページ。

例 ウィントン・ディーン，1994，「批評」，『ニューグローヴ世界音楽大事典』14巻，202-212.

⑥事典項目（オンライン）

著者（不明の場合は著者不明），最終アップデート年，「項目名」，『事典名』（URL，取得日）。

例 吉田精一，2006，「与謝野晶子」，『ブリタニカ・オンライン・ジャパン』（<https://www.britannica.co.jp/online/bolj/>，2019年7月30日取得）。

⑦新聞記事

著者（記名記事でない場合は社名），出版年，「記事名」，『新聞名』，発行日，版や巻，ページ（電子版の場合は、データベース名，URL，取得日）。

例 鶴光太郎，2019，「働き方改革と生産性向上 従業員の理解、業績に直結（経済教室）」，『日本経済新聞』，2019年7月5日，日刊，25.

⑧ウェブ上の文書

著者（または発行者），公表年または最終アップデート年，「文書名」，必要に応じて文書作成日（URL，取得日）。

例 衆議院，2017，「第193回国会 衆議院 憲法審査会会議録 第7号会議録」，2017年6月1日（<http://kokkai.ndl.go.jp>，2019年7月30日取得）。

(2) 洋書

原則として「，」「.」「:」は半角文字とし、直後に半角スペースを空ける（ただしこれらの記号が直後に連続する場合にはスペースは不要である）。筆頭著者は姓・名の順に書き、姓と名の間を「，」で区切る。2人目以下はその国の習慣に従って名・姓の順に記して間に半角スペースをとり、著者が複数いる場合には「，」で区切り、最後の著者名の前に「， and」を置く。書名、雑誌名はイタリック体（斜体）で、論文名等は“ ”に入れて記し、本題と副題との間は「:」で区切る。記載項目は和書に倣い、文献の種類によって以下のとおり記載する。

①雑誌論文

著者，出版年，“論文名”，雑誌名，巻号：ページ（電子版の場合は、URL，取得日）。

例 Hedger, Stephen C., Shannon L. M. Heald, and Howard C. Nubaum, 2013, “Absolute Pitch May Not Be So Absolute”, *Psychological Science* 24, no. 8: 1496-1502(JSTOR, <https://www.jstor.org>, retrieved July 16, 2019).

②論文集の一論文

著者，出版年，“論文名”，編者，書名，出版地：出版社，ページ。

例 Notomi, Noburu, 2004, “Ethical Examination in Context: The Criticism of Crtias in Plato’s Charmides”, Maurizio Migliori, Linda M. Napolitano Valditara eds., *Plato Ethicus: Philosophy is Life*, Sankt Augustin: Academia Verlag, 245-254.

③単行本

著者（または編者），出版年，書名，出版地：出版社（電子ブックの場合は、版

名，取得日）.

例 Kane, Robert, 1996, *The Significance of Free Will*, New York: Oxford University Press.

④事典項目（オンライン）

著者（不明の場合は著者不明），出版年，“項目名”，事典名（URL，取得日）.

例 Ellen Rosand, Beth L. Glixon, 2002, “Strozzi, Barbara [Valle, Barbara]”, *Grove Music Online* (Oxford Music Online, <https://www.oxfordmusiconline.com>, retrieved July 30, 2019).

⑤新聞記事

著者（記名記事でない場合は社名），出版年，“記事名”，新聞名，発行日，版や巻，ページ（電子版の場合は、データベース名，URL，取得日）.

例 Melissa Eddy, 2013, “East German Model City Rusts, Quarter-Century After Berlin Wall’s Fall”, *New York Times*, Nov 4, 2013, A6 (ProQuest Historical Newspapers, <https://www.proquest.com/products-services/pq-hist-news.html>, retrieved August 1, 2019).

⑥ウェブ上の文書

著者（または発行者），公表年または最終アップデート年，“文書名”，必要に応じて文書作成日（URL，取得日）.

例 Wakayama Tourism Federation, n. d. “World Heritage: The Kumano Kodo Pilgrimage Routes” (The Official Wakayama Travel Guide, <https://en.visitwakayama.jp/themes/world-heritage-the-kumano-kodo-pilgrimage-routes>, retrieved August 9, 2019).

附 則

この要項は、令和3年7月21日から施行する。

附 則

この要項は、令和4年7月20日から施行する。

附 則

この要項は、令和5年6月21日から施行する。